

◆司会

それではただ今から、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい、よろしくお願いいたします。本日の案件は一つであります。
この局面で記者の皆さんにも説明し、ご理解いただき、市民の皆さんにお願いを申し上げたいという観点から、新型コロナウイルスの感染状況と市民の皆さんへのお願いという項目を立てさせていただきました。なるべく完結に説明をしたいと思いますが、どうぞ、よろしくお願いいたします。
まず一つ目、陽性者数の推移であります。緑の折れ線グラフが国の、青い棒グラフが県の、そして、黄色い棒グラフが静岡市の陽性者の数を表しております。総じて、こうやって重ね合わせると、静岡市の発生状況は概ね全国、あるいは首都圏の数と連動していることが分かります。つまり、首都圏等の感染者が拡大すると、それに影響されて静岡市内の感染者も増えるということが推察されます。
そうしたことを前提に二つ目、最近の発生状況であります。感染経路等を分析いたしました。この表は静岡市の公式のホームページで毎日更新しているものであります。青い棒グラフが毎日の新規感染者の数、赤い折れ線、これが他の都市との客観的な比較ができますので重要でありますけれども、直近1週間の人口10万人あたりの新規感染者の数を表すグラフであります。今回は陽性者がとりわけ多かった、1月6日から16日までの10日間を分析の対象にいたしました。
次です。陽性者の推定される感染経路であります。それを分析すると、やはり病院とか施設とか家庭の中、つまり生活を共にする中での感染が多いということが分かります。つまり、一緒に生活をする、寝食を共にしている中で、感染防止をするというのは難しいということでもあります。それ故、いかにその中に、生活をする場にウイルスを持ち込ませないかということが重要であります。
次をお願いします。それでは陽性者の推定感染経路、どこで感染したウイルスが持ち込まれたのかということでもあります。二つポイントがあります。一つ目は生活を共にする場以外での感染経路を分析すると、会食による感染が疑われるものが非常に多いということが分かります。飲食店だけではなく居宅等の会食、パーティーをやるとか、家族会を、いろいろあるというのを、居宅等の会食も含めると、7割以上がこれに当たります。二つ目は県外との往来によるものと疑われる事例についても、一次感染経路だけで13.5%あります。二次感染、そして三次感染も含めると、さらに多くの事例が、県外との往来に由来している可能性があります。これが二つのポイントであります。

そういうことを認識してくださった上で、最後に市民の皆さんへのお願いであります。一つ目は、会食はやはり非常にリスクが高いということを改めてご理解いただき、感染防止対策が不十分な飲食店は利用していただかないようにと思います。また、飲食店に限らず、会食の機会は食事を黙って行なう、会話をする際にはマスクを着用すると、いわゆる「黙食」という言葉が首都圏の飲食店が編み出して、少しこの頃、語られるようになりましたけれども、黙って食事をする黙食の徹底をお願いいたします。本当は欧米等々で、食事というのはコミュニケーションの機会、コミュニケーションしながら食事を楽しむというのが、どちらかというとヨーロッパの食事の仕方であって、それに比べて日本人は食事の時に会話が少ないなんていうふうに言われておりました。それは食事というのは尊いもの、殺生して、そのものをいただいて、自分が生かされるということですので、謹んでいただくという意味でも、食事であんまり会話をするということは、仏教の言葉では黙食、食というのを読ませて、断食じゃない黙食、黙って食事を誰かの、動物たちの、魚たちの命をいただいているんだというようなことで、黙食という言葉が言われますが、ここは黙食ということは一つ、わりあい応用しやすいことだと思いますので、ここを徹底してほしいというふうに思います。

二つ目は、今は県外との不要不急の往来は控えていただきたいということもお願いいたします。

最後に、市民の皆さんにお願いするだけではなくて、静岡市も徹底して、この感染拡大防止に、これからも取り組んでまいりたいと思います。市内の飲食店のクラスターに対する保健所による調査によりますと、従業員のマスク着用が徹底されていなかったり、換気などの感染防止対策が不十分な店舗が散見されるということでもあります。そこで、静岡市では今後、飲食店での感染防止対策の徹底を図るため、三つの取り組みを進めてまいります。

一つ目は新しい取り組みです。飲食店で感染者が一人でも発生した場合には、保健所による発生源の調査に加えて、感染予防対策の実施状況を確認するために、市の職員による訪問指導を行なっていきます。

二つ目は、これは今までもやってきたことの継続であります。飲食店の営業許可の更新時における訪問指導の際、感染防止対策に関する指導を行なっていきます。

三つ目は、これは拡充、去年も夏に4回ぐらいいたしましたけれども、少し対象を広げて、まちなか飲食店検査の実施していない店舗に対する感染防止対策の講習会、および相談会を2月に実施していきたいと思っています。

次お願いします。先ほど指摘しましたけれども、ぜひ市民の皆さんは本市のホームページを開いていただき、今、静岡市はどのぐらいのレベルの感染者数があるのか、首都圏ほど広くはありません。しかし、我々は我々で警戒しなければいけません。そんな客観的な数字として一番強調しているのが、人口10万人あたりの新規感染者数です。現状は、15.42であります。これは国の分科会が定めるステージ3に相当します。先月の初

めにはステージ4、25人以上いきました。そういう意味では少し、少なくなっておりますが、まだ危機感を持っていかなければいけません。この数値を、まずステージ3の15人以下に下げしていく、もう少しですね。そして、最終的には0にしていくことを、市民みんなで協力をしあって目指していきたいと思えます。「わたしの、あなたの、みんなの“いのち”を大切に “くらし”も大切に」、私たちが掲げるスローガンであります。それを実現していくために市民の皆さん、事業所の皆さん、そして、私ども行政が一体となって立ち向かわなければなりません。不幸にも感染してしまった方や医療従事者の方々への心ない誹謗中傷や、差別は感染防止にはつながりません。一人ひとりが思いやりの気持ちを持ち、力を合わせて新型コロナウイルスに立ち向かっていただけよう、市民の皆さんに重ねてお願いを申し上げます。私からは以上です。

◆司会

それではただ今の発表につきましてご質問のある方はお願いいたします。社名とお名前をおっしゃってからお願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問のほうをお願いいたします。毎日新聞さん、よろしく申し上げます。

◆毎日新聞

幹事社の毎日新聞です。1問目が静岡市立静岡病院で勤務する職員の新型コロナウイルスへの感染が判明しました。しかし、病院が感染者の発生を公表していないことが分かりました。市の保健衛生医療課は記者会見で、感染者がいることは把握していたが、非公表を求める病院の意向を尊重したと説明しています。市長はこれまでクラスターが起きた施設については、公表を強く求める方針を表明していますが、病院の感染者の公表についてはどのようにお考えでしょうか。

◆市長

まず冒頭申し上げておきたいことは、もし静岡病院でクラスターが発生した場合は施設名を公表する、この方針は全く変わっておりません。そここのところはぜひ、誤解がないようお願いいたします。その上で個別の感染例については、今まで一般に発生してしまった陽性者と同様の取り扱いを、静岡病院もするとしたものであります。

静岡病院では新型コロナの重症患者さんを、現在、数多く受け入れております。通常医療や救急医療も積極的に担っております。しかしながら、第3波の感染拡大により、極めて病床が逼迫し、救急患者さんの受け入れが非常に困難な状況になっております。これまでは静岡市の職員と同様、静岡病院では職員が個別に感染し、報道されるたびに、患者さんや職員や、その家族への差別や中傷が起こってしまい、さらなる病床の逼迫につながってくるなど、現場の医療に大きな支障が生じているということ、小野寺院長から切々と報告がありました。

患者さんが動揺することなく、医療者が治療に専念できるような環境で取り組みたいという病院長の思いを受け、今、静岡市として第一に優先すべきは、医療者を支え、医療体制を確保することであろうという考えにいたりました。静岡病院は、院内の感染拡大防止を徹底しており、その対応を私は信頼しております。

そこで、静岡病院の感染者については、これまでは市の職員に準ずるものとして、病院名などを詳細に、自主的に公表していただきましたが、クラスターに至らない個別の感染例については、一般の陽性者と同様の取り扱いにしたいという病院からの、先ほど申した理由からの要請について了承をしました。

医療現場の非常に厳しい現状を踏まえた上での病院の判断、思いをぜひご理解いただきたいとお願いいたします。

◆毎日新聞

すいません、今の質問に関連して、今おっしゃった職員が個別に感染し報道されるごとに、差別や中傷が起こっているというのは、例えばどんなものがあったかというのは、ご存じでしょうか。

◆市長

たくさんございます。個別に例えばということは、今、申し上げれば枚挙にいとまがないわけですね、ですから昨年末も、私たちは少しでも医療従事者にエールをしようと思って、観光交流文化局のまちは劇場推進課が一丸となって、いやしのジャズのコンサートをクリスマスにやって、そして、静岡病院の医療従事者に対して、いやしの音楽のエールを送りました。すごくそれに応えてくれて、それで病院の窓からペンライトを振ってもらおうという光景もあって、すごく良かったということで、私たちはそういうふうに積極的に彼らを応援していこうということでもあります。

先ほども申し上げましたとおり、いろいろ誹謗中傷、あります。しかしながら、私たちはそんなことよりも、この現状を理解していただきながら、一人でも多くの市民に、そういうことをしないようにということをお願いするというのが、私の立場でありますので、よろしくお願いたします。

◆毎日新聞

次の質問に移ります。桜ヶ丘病院なんですが、JR清水駅東口公園への移転が決まった病院について、川勝平太知事が12日の定例記者会見で、「津波浸水区域への移転を判断なさった方の責任は非常に重い」と市の決定に苦言を呈しました。移転が決まった件についても「不透明感がつきまとっている、民意が反映されていない」と指摘しています。知事は市長との会談も要望していますが、応じる考えはありますか。また知事の指摘については、どのように考えますか。

◆市長

まず申し上げたいことは、市と県は今、連携をしなければいけない、一緒になって、このコロナ禍、団結して立ち向かっていかなければいけないということでもあります。昨日、ジョー・バイデン新アメリカ大統領の就任式がありました。ご覧になったかと思います。やはり、アメリカの一番の課題は、死者が50万人にも達しようというアメリカ国内で、分断からどう団結していくか、どう結束をしていくかということが、新大統領に課せられた最大の使命だということをおっしゃられました。私たちも同じであります。とにかく、今、批判し合っているときではない、私はまず県に対しても連携団結、そして、市も県も一緒になって、市民、県民の安全安心を守っていきたいと思っております。その点では清水のまち、清水にお住まいの皆さんの一人ひとりのことを思って取り組んできた、市とJCHOが当事者でありますので、これも侃々諤々の議論、交渉過程があって、JCHOさんが、私たちが示した候補の中で、あの場所を選んで合意に至ったものであります。津波想定域という質問に対して、先月、私たち高輪で記者会見をしましたがけれども、その直後の記者会見でも、記者の方からその質問があって、非常に論理的に尾身理事長は応えておりました。大丈夫だということをおっしゃっていました。そういうところから、むしろ県に要望申し上げたいのは、港町から発展したまちですので、中心市街地が全て沿岸域に形成されています。そのエリア全体を、県は防潮堤を整備していくということを進めておりますので、ぜひ防潮堤の実施主体、整備主体は県でありますので、ぜひ、これから、その責務を果たしていただいて、一緒になって連携して、清水都心全体を津波から守ってまいりたいというふうに思っております。

◆毎日新聞

今のお話で、具体的に知事とお話ししたりとか、連携している部分というのは、どんなことがあるのでしょうか。今、進んでいることはありますか。

◆市長

医師の確保については県と市、今、連携して進めております。桜ヶ丘病院の移転の問題だけではないんですね。これは清水区の医療体制を、いかにこれから充実していくかという課題のほうが大きいです。で、建物はできるんだけど、そこに充実するマンパワー、医師の確保ができるかということが大事です。葵区や駿河区に比べて、お医者さんの数も少ないというのが現状です。そのところは県と市が連携して、中長期的なビジョンを持って、これから桜ヶ丘病院の医師の確保に取り組んでまいりたいというふうに思っています。

◆毎日新聞

ありがとうございます。3番目の質問で、新型コロナ変異株の市中感染が県内で確認されたことについてです。このことについて、市はどのように対応していきますか。また、変異株の感染確認を受けて、新たな市としての対策があれば教えてください。

◆市長

私どもは政令指定都市ですので、環境保健研究所を擁しております。この変異種が見つかったという危機感を基に、変異株を特定する検査については、この環境保健研究所の所有する分析機器、そして培ってきた職員の検査技術などを活用し、この検査が実施可能だと判断しておりますので、国から依頼等があれば、対応できるように準備を進めております。

一方、変異株であっても、市民の皆さんの基本的な感染防止対策は、先ほど申し上げたものと同じであります。そんなに、このことを、皆さん一人ひとりの慎重な行動が大事なんだということを、もう一度お願いし、そして、医療関係者をはじめとする、この対策に奮闘している皆さんへの負荷を減らす、医療体制の崩壊を防ぐということ、それぞれの市民の皆さんが、先ほど申し上げたような対策を、一人ひとりが自覚していただけるということであるならば、それが一番の変異株に対する取り組みだろうというふうに思います。

◆司会

それではただ今の幹事社質問に関しまして、ご質問がある方はお願いをいたします。NHKさん、お願いします。

◆NHK

NHKです。補足で伺います。まず、静岡病院について、病床逼迫、救急患者も受け入れ困難になっている中で報道されると、ということをご説明ありましたが、ということは清水病院についても同じ扱いをされたいということですか。

◆市長

清水病院はまだ出ておりません。これはこれからのお話でありますけど、あそこもコロナ患者を静岡病院ほどではないですので、ですので、ぜひそれは、静岡病院と清水病院一緒くたにするのではないということ視野に入れつつ、現実的な対応をしていきたいと思っています。

◆NHK

ごめんなさい。清水病院でこの先患者が出たら、今、市長が静岡病院についておっしゃ

ったのと同じ理由で、清水病院だけ公表しないということになるんですか。

◆市長

そんなことは今、申し上げておりません。また、今、コロナが発生していないという清水病院の頑張りを私は理解して、その仮の質問には答えるべきではないというふうに思います。それよりも記者さん、ぜひ、私、今日、間接的に院長の思いを申し上げました。院長、理事長、副理事長、実務的には平松副理事長が窓口になろうかと思えますけれど、現場の取材をしてください。そして、その中で院長さんにも会ってください。そして、なぜ、こういう判断に至ったかということについて、ぜひ市民の皆さんにお知らせいただきたいと、そんな報道をお願いしたいと思います。以上です。

◆NHK

今、仮の質問には答えられないという発言、菅総理も似たような発言をされて、総理たる者がいろんな想定をしていないというのはどういうことか、という批判を浴びたこともありましたけれども、私は、たぶん、そんな難しい話はしていませんで、市職員は一人でも公表するという基準だと思います。であれば清水病院は独法ではありませんので、市の組織ですので、市職員ですよ。これ、清水病院まで、場合によっては公表しないということがあるんだとしたら、市の基準変更だと思うんですが、いかがでしょうか。

◆市長

ですから、今、コロナの患者が一人も出ていない清水病院でありますので、もちろん、原則として市の職員、市長部局の職員ですから公表をします。ただし、病院という特別な施設であります。そこで清水病院の医療が崩壊してしまったらどうしようもないですよ。だから私、市長としては、市の職員と同様の公表を促すということが原則であるということは申し上げておきます。

◆NHK

促すというと、清水病院に限らず市の関係機関で、うちは特別な事情があるから公表しないで、と要請があったら、それには柔軟に応じていくということでしょうか。

◆市長

そんなこと申し上げておりません。公表するべきだと思います。

◆NHK

清水病院で起きたら、これは公表する、市の部局であるので、ということは変わらないと思って、それはよろしいですね。

◆市長

原則として、そういうことが私の方針です。市長部局の職員ですからね。

◆NHK

ダブルスタンダードはないということ…

◆市長

私はそう願いたいと思っています。

◆NHK

願いたいというお言葉がどういう意味なのか、ダブルスタンダードもあり得るということなのか、これ、全体に関わることですので…

◆市長

もっと大事なことは医療の現場を守るということです。いいですか、もっと大局的にものを考えていただきたい、いろんなことが起こるんです。臨機応変な対応をしないやいけない、その中ではルールの変更ということも考えられる。でも、私はしたくないですよ、ぜひ、お願いさせていただきます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。

◆NHK

ひとまずもう少し、別の質問よろしいですか、桜ヶ丘病院について、バイデン大統領の就任とアメリカの分断を持ち出されましたが、これは川勝知事を何か、批判をする川勝知事を、分断をするトランプ大統領になぞらえているという理解をしてよろしいでしょうか。

◆市長

そんなことは毛頭ありません。ですから知事の発言を受けて、私は連携を呼びかけたいという気持ちを吐露したというふうに理解していただきたいと思います。

◆NHK

今、批判をし合ってるときではないというご発言、非常に重い発言だと思いますが、行政に対する批判は許さないという意味でしょうか。

◆市長

ん。

◆NHK

今、批判をし合っているときではないというご発言…

◆市長

ぜひご理解いただきたいのは、例えば、先ほどの誹謗中傷もそうです。相手に、今、誹謗中傷するのではなくて、相手を思いやって、市民同士がとにかくみんなで一緒に自覚を持ってコロナに立ち向かっていこうと、そして、オリンピックやりたいじゃないですか、みんなでね、どういう方法になろうと、今、すごく正念場なんです。そういったときにお互い立ち位置が違えば、いろいろ言いたいこともあろうと思います。批判をしたり、誹謗中傷したりという気持ちになるのも分かります。

ただ、そのところは、例えば行政連携の中では、今、大同団結をするべきだというふうに私は思っています。

◆NHK

誹謗中傷はするべきではないというのは、これは万人、コンセンサス得られると思いますが、批判をするべきではないというのが、民主主義に基づく行政と市民の関係の中で、批判があってはならないというのは、私、驚いてしまったんですが、どういう意味でしょうか。

◆市長

先ほどの幹事社のご質問は、川勝平太知事が市の決定に苦言を呈しました、それについてどう思いますかということですので、その苦言は受け止めた中で、私は防潮堤の整備をお願いしたいということを申し上げたということであります。

◆NHK

質問は…

◆市長

苦言を呈したということ、私、批判という言葉は使いましたが、それに対して誠実にお答えをしたという理解をしていただきたいと思います。

◆NHK

いや政治家が批判をしているときではないという発言は、どういう意味か真意は、やはり断言したんですから。

◆市長

苦言を呈されましたが、それに対して批判で答えないということです。連携をしたいということでもあります。その苦言を私は真摯に受け止めた上で、県の防潮堤を、整備をお願いしたいということでもあります。

◆NHK

知事に限らず、住民監査請求もされましたけれども、田辺市政を批判する方は、何か市を分断する良くない方だということですか。

◆市長

そんなことは言っていません。いいですか、それは記者さんもそうですし、市のこのコロナ対策にしても何にしても、落ち度があったら批判をしてくださって結構です。その批判を受け止める中で、改善ができるということが健全な関係です。ですから、それを住民監査請求と結びつけて批判をしてはいけないなんていうことは、私、全く申し上げておりませんので、ぜひ、ご理解をいただきたいと思います。

◆NHK

今も、撮影も、ライブ配信もされていますけれど、先ほどおっしゃった、今、批判をし合っているときではないという発言は、今、撤回されたという意味で理解してよろしいですか。

◆市長

いや、県知事と市長の間ではそういうことでもあります。行政連携をしなきゃいけないということでもあります。

◆NHK

長くなって他の記者さんに申し訳ないんですが、県知事と市長という独立した政治家同士が、批判をし合ってはいけないというのは真意が取りかねる。

◆市長

だからコロナの対策でとにかく小異を捨てて、大同団結をしたいという私の思いです。

◆NHK

知事、おっしゃっているのは桜ヶ丘病院についてなんですけれども、これについても批判をしてはならない。

◆市長

だから、苦言を呈しましたね、現実的に、だからそれを真摯に受け止めます。ただ、私のほうはそれに対して、防潮堤、ぜひ県が整備主体ですので、お願いしたいということは（申し上げたい）。

◆NHK

また時間があったら、改めて伺います。ひとまず結構です。

◆司会

朝日テレビさん、お願いします。

◆朝日テレビ

失礼します。静岡朝日テレビです。コロナの緊急事態宣言についてお伺いします。今日、この後、午後に県内の市長会および町村会が、川勝知事に対して、緊急事態宣言の発令を政府に要請するよう要望を出します。このことについて、静岡市として、どのような見解か教えていただけますか。

◆市長

今、県の市長会の会長、熱海市長の齊藤さんであります。齊藤市長はたいへん、東部、熱海市ということで、首都圏と接点があるということで、このことについて、危機感を持っております。そういう流れの中で、この呼びかけをされました。私は理解できますので、ぜひ、市長会まとまって要請を出すことを取りまとめていただきたいというお願いをいたします。

◆朝日テレビ

静岡市として賛成や反対とか、そういったご意見はございますか。

◆司会

会長が取りまとめた上で、今日の要請行動になるわけですから、それを私たちは見守りたいと思っています。

◆朝日テレビ

静岡市、これまで緊急事態を要請するような事態ではないというようなご趣旨だったと思うんですけども、日々、状況、変わっているとは思いますが、現時点でのお考えを聞かせていただけますでしょうか。

◆司会

そうですね。つまり、ご承知のとおり、県内でも、先ほどの私たちが指標として示した人口一人あたりの新感染者数も、我々は 15.6 人、ずいぶんまだら模様です。凹凸があります。で、首都圏でご承知のように、この宣言、国がやると、かなり止まってしまいます。それを「いや、そこまでではない」という自治体も県内ではあるかもしれません。そういう流れの中で、1 週間ぐらい前だったでしょうか、齊藤会長と「せっかくやるんなら全県的に、中東部だけとか、東部だけではなくて、西部も含めた上で、全県で要請をするというほうがベターだね」ということで、私もいろいろな市長と、その会話をしました。「うちのところはあんまりないけれども、でも、そういうことで熱海市さんが苦勞しているんだったら反対はしないよ」という意見も来ました。そういう中で西部も含めて、あるいは町長会も含めて、今日の要請をするという取りまとめに尽力してくれた齊藤会長を、私は支援していきたいと思っています。

◆朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。それでは、その他のご質問がある方は、お願いをいたします。テレビ静岡さん、お願いします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。今朝、一部報道で、静岡大学と浜松医科大学の再編延期の報道が出ました。市長は従前から、合意形成が大切だというような旨の発言をよくされていたかと思うんですけども、今回の受け止め、所感を一言お願いします。

◆市長

私も今日の新聞で一報を知りました。今回の統合再編に関しては、文部科学省が地元の理解を得るということ、とても強く求めております。このことを受けて、静岡市はご承知のとおり、静岡大学さんとともに静岡大学将来構想協議会の設置をして、議論を続けております。協議会では静岡大が提案している、浜松にある工学部ならびに情報学部と浜松医科大学が合併して、浜松地区大学となり、静岡の 4 学部のみで静岡地区

大学になるという再編型の一法人二大学に対しては、十分な賛同が得られていない状況だと判断しております。新聞報道にもありました統合再編の延期という話は、私は直接聞いておりません。現在も協議会ならびにその下に設置したワーキンググループでの議論が続いております。私としては静岡大学にはさまざまな学びのニーズに応えられる総合大学、それも世界の静岡大学、たくさんの留学生が静岡大学に目標を持って集まってくれるような、そんな世界に輝く大学になっていただきたいなというふうに願っております。

日詰新学長のビジョンというものに向けて、私たちはプレーヤーは大学の自治のことでありますので、大学がプレーヤーでしょう、私たちはサポーターとして、そのビジョンを目指していくということであるならば、それをサポートしていきたいと思っておりますし、今後、大学の中でその議論が深まることを期待しております。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆SBS

SBSです、よろしくお願いします。変異株の感染者が県内で発生したことを受けて、県が感染拡大緊急警報を出して、県民に対して不要不急の外出の自粛を求めているんですけども、取材していますと市内の飲食店でも全くお客さんが来ないということで、疲弊されていて、指針が全くないことで憤っている方もいらっしゃるんですけども、市として何か対策ですとか支援について考えていることがあれば、お願いします。

◆市長

今はこれぜひ報道していただきたいんですけども、感染拡大防止対策がすなわち、経済対策につながっていくというふうに思っています。第3波以前までは、これは、どこの自治体の首長も難しいかじ取りをされたと思いますけれど、両立しがたい二つの点ですね、“いのち”と“くらし”です、感染拡大防止と社会経済活動の維持という、この二つを局面、局面でかじ取りをしながら、アクセルしたり、ブレーキしたりしていたんですね。そういうところが国も後手、後手ということで、Gotoの中止のタイミングを逸したというふうに批判されておりますが、どこの自治体もこのところは悩むところなんですね。その中で、しかしながら第3波が来た。ここは感染拡大防止、とにかく数を抑え込むということを最優先にしていくということに私はかじを切っております。

ワクチンの接種が3月には静岡市でも行なわれることになります。その効果がどのくらいあるか、私は一つ、それがね、効果があることを願っておりますけれど、そこにいく3月まではあと1カ月少しの辛抱だと思っておりますけれども、そこまではとにかく先ほど

申し上げましたとおりの感染対策を、一人ひとりの市民の皆さんに促して、そして、感染拡大防止に重きを置いて取り組んでいきたいというふうに思っています。

◆司会

その他、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。すいません、先ほどの大学再編に関して、もう一度、ちょっと詳しく伺いたいんですけども…

◆市長

はい、どうぞ。

◆静岡新聞

新聞で一報を知ったとのことなんですけれども、静岡大学からは直接は話を伺っていないということでもよろしいのでしょうか。

◆市長

私のところには来てませんが、所管のほうはどうでしょうか。副市長、企画局長。

◆企画局長

企画局でございますが、我々事務方のところにも、静岡大学さんからそういったお話は現時点で来ておりません。

◆静岡新聞

分かりました。ありがとうございます。それから、一応サポートをしていく、議論が深まるように再編に関してサポートしていくとのことでお話しされたと思うんですけど、こちらは間違いないですかね。

◆市長

はい、そうです。学長選挙の時に、日詰さんがどんな静岡大学を目指して学長選挙に立たれるのかというお話を伺い、日詰先生の考え方を聞き、私はそこの理念にすごく共鳴をしております。ですので、それをサポートしていきたいと、全力でサポートしていきたいというふうに思っています。

◆静岡新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。先ほどの病院の話に戻って恐縮なんですけれども、市はJCHOで行われた時の会見で、これから説明責任を果たしていく、という考えも述べていらっしやっただと思うんですけれども、先日、清水のまちづくりの市民の会という団体が、市長に対して公開質問状を桜ヶ丘病院に関して出しまして、その締め切りというか、回答締め切りが1月20日に設定してあったのですが、連絡が今のところ、市民の会のところがないということをおっしゃっていたんですが、その辺はどういう考えで回答をされていないのかというのを、ちょっとお聞かせ願えますか。

◆市長

1月20日が締め切りだということですね、ここの論点については、私の考え方を所管の局と議論しておりますけれども、私たちが説明するべきことと、経営主体はJCHOでありますよね、JCHOさんに説明してもらおうこととあろうかと思えます。その質問書というのは、JCHOさんにも出したんですけど。

◆静岡新聞

市だけです。

◆市長

そうですか。

◆司会

補足を、では担当のほうからさせていただきます。

◆保健衛生医療課長

補足説明をさせていただきます、保健衛生医療課長の山本と申します。今、記者のおっしゃるとおり、20日ということで申出書を頂いております。今、目下目下、準備をしております、コロナ禍の関係で多少遅れていることは、代表の方にも先ほど説明をさせていただきました。大至急支度をしてお返しをしたいと思えます。

◆静岡新聞

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

はい、NHKさん、お願いします。

◆NHK

すいません。先ほど市長、ワクチンまで1カ月ということをおっしゃいましたが、ワクチン接種のスケジュールを今の時点でおっしゃれる範囲で、具体的をお願いします。

◆市長

少し実務的にも答えてもらいたいと思いますけれども、国が、ご存じのとおり示した工程表に、積極的に私たちは応じていきたいというふうに思っています。早く市民の皆さんに接種の環境を提供していきたいと思えます。そのスケジュールによると、3月の下旬に、ご高齢の市民の皆さんに接種を開始することになっております。現在、医師会や公的病院と共有し、接種会場の設定や医療従事者の確保等々の接種態勢の検討を、急ピッチで進めているところであります。また、コールセンターの設置等も必要であることから、そのような周辺環境の整備、事務手続きも進めております。

一方、ここに当たる事務局は、保健所の中の保健予防課が担当します。従来のマンパワーだけでは足りないということも想定できますので、この人員態勢の強化についても、今後探っていきたいと思っております。

今後、ワクチンの供給量や接種時期などについて、再度、国から示される計画となっておりますので、具体的な接種の流れや予約の方法など、国からの情報がありましたら、それを順次、皆さんにもお知らせをしていきたいと思っております。以上です。少し補足があれば、保健福祉長寿局、お願いをしたいですが、大丈夫ですか、今の説明で。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局の和田です。今の市長の説明でほぼ大丈夫ですけれども、既に次の2月補正でも当然、予算を上げておりますし、それよりも先んじて着手しなければいけない準備経費については、流用で対応して、既に準備に今、入っております。それから人員につきましても、職員につきましても、随時、増員をしつつ準備のほうにも対応しておりますので、そこら辺は遺漏なく準備を進めたいと思っております。以上です。

◆NHK

医療従事者の先行接種とか、他の医療従事者の優先接種も2月下旬とか3月中旬とか、国のスケジュールどおりと考えていいですか。

◆市長

ご承知のとおり、医療従事者は県が全県的にやるということであるので、そちらのほうに委ねているわけですが、それでいいと思います。

もし局長、補足があれば。よろしいですか。

◆保健福祉長寿局長

はい、いいです。

◆司会

よろしいでしょうか。では最後ということよろしいですか、第一テレビさん、お願いします。

◆静岡第一テレビ

すいません、静岡第一テレビです。よろしくお願いします。

◆司会

隣のマイクを使っていただいてよろしいですか。すいません。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。よろしくお願いいたします。先ほどの市長の再編のことについて、お伺いしたいんですけども、日詰新学長の理念に共鳴するというふうにおっしゃっていたと思いますが、その辺について日詰先生は反対の立場だと思っておりますけれども、そうした姿勢についても支持する、サポートするということなんでしょうか。

そのご真意といたしますか、意味合いというのを教えていただけますか。

◆市長

先ほど申し上げましたとおり、これは大学の自治の問題であります。プレーヤーは静岡大学であり、静岡大学で日詰さんが新学長に選ばれたということで、それは新学長の考え方、選挙で訴えたことが支持されたということですので、それをサポーターの立場として支持するのは当然であります。また、これは大学間の交渉でもあります。ですから、日詰新学長は自分のビジョンを持ちつつ、浜松医科大学の学長と議論されたんだろうと思います。そういう中で、こういうことであるならば、それは、私は支持することでありませぬ。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。

◆司会

それでは以上で、本日の市長の定例記者会見を終了させていただきます。
次回は2月8日の金曜日（注：正しくは月曜日）、11時からの予定です。
本日はありがとうございました。